

く。

本県下では各地に得られるのではないかと考えるが、筆者の確実に知り得た産地は神戸市御影町・六甲山・尼崎市・川辺郡東谷村であり、おそらく近似する次種と混同されている例が少なくはなからう。深山部での採集は殆どが次種のみであるが、その発生期の相異なるためかかる地域に分布するかどうかを今後さらに調査する必要がある。発生回数も次種に準ずることと思うが、筆者たちの採集記録は4月（春型）と7～8月（夏型）である。

- f.v. 1♂ 27/IV, 1953 神戸市御影町
coll., poss. M.Y.
1♀ 3/IV, 1948 神戸市御影町
coll., poss. M.Y.
f.ae 1♂ 25/VI, 1951 神戸市六甲山
coll., poss. M.Y.

1♀ 14/VI, 1954 神戸市御影町
coll., poss. M.Y.

8. スジグロシロチヨウ

Pieris melete MENETRIES

広く各地に分布するが山地に多く、4～5～6月（春型）と7～8～9月（夏型）に現われ、年3回を基準として山地では2回、平地にあつて4回くらいの発生をくり返すものと思われる。夏型第1回目の個体には著しく大形のものも得られる。

- f.v. 1♂ 19/IV, 1952 神戸市御影町
coll., poss. M.Y.
1♀ 19/IV, 1952 神戸市御影町
coll., poss. M.Y.
f.ae 1♂ 29/VI, 1951 神戸市六甲山
coll., poss. M.Y.
1♀ 22/VI, 1952 神戸市六甲山
coll., poss. M.Y.

科学的態度の育て方

秋 山 岩 雄

本稿は11月7日（1957）の神戸新聞より抜萃しました。（編集子）

【問】 この間、子どもと山に行きました。色づいた木の葉について、四年の女の子に「これなに？」とか「きれいなね。どうして、こんなになるの」と質問されて困りました。質問には満足に答えられないまま、落ち葉を拾って帰つたのですが、よい指導法を教えてください。（西宮市・山本美代子）

【答】 自然界のいろいろな出来事や、変化に疑問を持つことが、科学的態度を育てる第一歩です。その点で美しく色づいた木の葉をみて、これは何の木だろうと思つたり、どうしてこんなになるのだろうと、不思議に思う子どもさんの態度は、なかなかよい態度だと思います。

そこで、この質問の受けとめ方ですが、名前を知ること、自然への親しみを深めますから適当に知らせたいと思います。ところがお言葉のように、名前がはっきりしない場合は、拾つた落ち葉を雑誌などにはさんでおいて、この方面に明るい人に、たずねることもよいことですが、それよりも一番大切なことは、子どもが自分自身で図鑑や資料を使って調べようその態度や技能を身につけさせてやることです。

小学校の理科書を見ますと、発行所によつて差はありますが、木の種類は、1年から6年までに70前後し

か出ていません。ということは、名前をたくさん覚えさせることが目的でないということです。むしろ自然の理法や変化の妙味に目を開かせ調べる態度を養うことに意味があるわけです。したがつて数多くをねらわずに「おかあさんも分らないから…」と子どもといつしよになつて調べられることの方が、安易に名前を知らせる以上に科学心の芽ばえを太らせ、研究の態度や技術を伸ばすことになります。何でも親が知つていなければ子どもを指導できないというものではありません。

どうしてこんなになるのか、質問については4年の教科書にもみられるように、広い葉をつけたいろいろな木が、環境の変化につれて、どのような生き方を示すかに着目させ、4年生相応の考え方をさせます。

また1年中、葉をつけている常緑樹や、冬には葉の落ちてしまう落葉樹について、どんな葉のものが落ちるか、どんな時に落ち葉が起るか、落ち葉はどんな役割を果しているのだろうかについて目をつけさせ、いつしよに話し合いをし、分らないことは、いろいろな図書や参考書を見つけて出して研究するようにしむけることが第一です。要は何でも教えることよりも、子ども自身がみずから進んで題を追求して行くようにしむけることが新しいしつけ方の根本だと思います。